

鳥の楽しみ、よりどりみどり

ミニ電子展示「**鳥と暮らしのヒストリー**」公開

パソコン・スマートフォンからどなたでもご覧になれます

国立国会図書館は令和7年4月22日に、ミニ電子展示「本の万華鏡」第37回「鳥と暮らしのヒストリー」を公開しました。「聴く」「見る」「飼う」という3つの観点から、暮らしの中で私たちと鳥が築いてきた文化を江戸時代までの資料とともに紹介するオンライン展示です。



URL: <https://www.ndl.go.jp/kaleido/entry/37/index.html>



聴く

ウグイスやホトトギスなど季節を告げる鳥の鳴き声を詠んだ和歌や、鳥の鳴き声を人間の言葉に置き換える「聞きなし」が見られる資料などを紹介。



見る

江戸時代の大名、牧野貞幹や増山雪斎が自ら鳥を描いた図譜や珍しい鳥の展示会の様子を描いた資料、江戸で見られた鳥を記した資料などを紹介。



飼う

鳥の飼育書や江戸時代の鳥屋を紹介する資料、鷹狩や鶺鴒飼に関する資料などを通して、当時の人々がどのように鳥を入手し、飼育していたのかを紹介。

■ 報道機関の方のお問い合わせ先

国立国会図書館 総務部 総務課 広報係 03-3506-5103 (直通)

■ 紹介している資料（例）



「春告鳥」のウグイス

ウグイスは「春告鳥」とも呼ばれ、その鳴き声によって春の到来を告げるといわれています。初春の象徴であるウグイスは、同じく初春に盛りを迎える梅の花とともに描かれることが多く、この作品もそのような取り合わせの一例です。

出典：嵩岳堂『生写四十八鷹 うぐひす 白梅』，紅英堂，安政6

【寄別 7-8-2-3】

大名自筆の鳥の図譜

江戸時代の中期以降、本草学や博物学への関心の高まりを受け、一部の大名たちは、鳥の絵をまとめた図譜を編纂するようになりました。常陸笠間藩主の牧野貞幹や、伊勢長島藩主の増山雪斎のように、自ら鳥を描いた大名もいました。

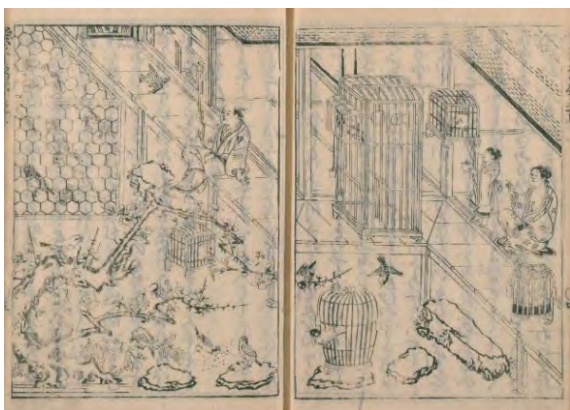
出典：牧野貞幹〔画〕『(鳥類写生図) 鶺鴒 フクロウ』，写【寄別 3-6-3-5】



鳥の飼育書

江戸時代、庶民の間でも鳥を飼うことが流行し、鳥の飼育書も多数出版されました。鳥の餌の作り方や病気になったときの対処方法などが記され、現代の鳥の飼育書でも広く見られるような記載があります。

出典：蘇生堂〔著〕『喚子鳥 2巻』，須原屋茂兵衛，塩屋喜助，宝永7【京-57】



本の万華鏡

URL: <https://www.ndl.go.jp/kaleido/>

「昔話」「探偵小説」「忍者」「魚」「和菓子」など、37のテーマで、国立国会図書館の蔵書を紹介しています。

■ 報道機関の方のお問い合わせ先

国立国会図書館 総務部 総務課 広報係 03-3506-5103（直通）